

北海道自然保護連合通信

北の自然

第
39
号

1989年3月1日



オジロワシ

写真 池辺祐介



ウ ト ナ イ 湖 全 景

千歳川放水路問題

—現地からの報告—

大 畑 孝 二



1. はじめに

千歳川放水路問題については、『北の自然』の第二十五号で特集として紹介され、第三十三号では、千歳川放水路を考える会会長の三浦二郎氏が投稿されています。その後の動きや問題点をあらためて紹介し、今年は、アセスメントを中心に大きな動きになる可能性が強いので、この問題を考える一助になればと思います。

ご存知の方も多いと思いますが、計画の概要と経過を簡単に紹介します。これは、北海道開発庁が進める巨大国家プロジェクトで、千歳川の洪水対策がその目的とされています。洪水時、千歳川と石狩川の合流点の水門を閉じ、長沼からの放水路の水門をあけ、千歳川の水を逆流させて、太平洋に流そうというものです。放水路は長さ約四十キロ、幅三〇〇メートルと巨大な運河のようなものです。その上、放水路床は、太平洋の出口で海面下マイナス三メートル、千歳川との合流点でマイナス一メートル、河川勾配は二分の一となりほとんどため池の状態となります。工期二十〜三十年、工費二兆円とされています。

この計画が持ち上がったのは、昭和五十六年の大洪水がきっかけとされています。石狩川の洪水確率も一〇〇年から一五〇年に改訂され、石狩大橋での計画流量もそれまでの倍とされました。昭和五十七年三月の建設省の河川審議会で、放水路計画が承認されたのが、法律的な根拠の第一歩と言えます。しかし、これ程の大計画が審議会にかかったことも、そして、了承されたことも、多く

の関係者は、新聞で大きく取り上げられた昭和五十九年七月までほとんど知られていませんでした。そして、最初の説明会で、開発局の担当者は、審議会で決定されたことは、決して変えるわけにいかないと、放水路が前提の話ばかりをしたのです。

2. 開発局の動き、やり方

その後、日本野鳥の会、北海道自然保護協会、日本科学者会議、放水路を考える会、酪農家、漁業団体等、それぞれの立場での反対運動が続けられています。

開発局と、私たち地元自然保護団体は、公式の説明会、二回。非公式の話し合いを数回、今までに行ってきました。しかし、昭和六十二年六月十日以後は、一度も話し合いを持っていません。と言うのは、当初から高圧的な態度を開発局から受けていたのですが、それでも、何とか話し合いの中で解決していこうという点では一致しておったのと、ルート（当初開発局は三本の放水路のルートを示していた）決定に際しては、必ず事前説明をすると言っていたのを信じていたのです。

ところが六月十日一方的に開発局は、東ルートの決定を発表したからです。開発局の進め方は、いつも、長官、局長クラスが、強引な発言をし、担当者が、関係者を回って、つじつま合わせをするというやり方です。先日、一月三十日の局長の「アセスメントを年度中にスタートさせ、新年度後半には、用地買収に入りたい」も同じです。その後新しい調査結果も公表せず、私たちの疑問点

には何も答えていないのに、前回の強引な発言の反発がうすらいだ時をねらってまた、強引な発言をするというやり方です。

3. すぐにも入りたいアセスメント

開発局は、ここ数年の調査で、ほぼ、アセスメントの準備書を作るだけのデータを得たようです。ですから、局長の発言にもあったようにすぐにもアセスメントをスタートさせたいと考えています。みなさんもご存知のように日本のアセスメントは、事業アセスで計画アセスでないために、多分の開発の免罪符となっています。今回もアセスメントが行われれば、放水路計画をますます既成事実化し、強引におし進めていくものになってしまいます。その上、今回のアセスメントには、地下水や気象関係、美々川、ウトナイ湖の保全策等が入っていないようです。これについては、別途説明すると開発局では言っていますが、別途説明したのは、骨抜きのアセスメントではありながら、説明会、聴聞会、意見書の提出等、わずかながらの市民参加の権利も保障されないこととなります。放水路計画は、地下水が最も重要なファクターであるはずで、これがアセスメントに入っていないのは、論外を言う外ありません。

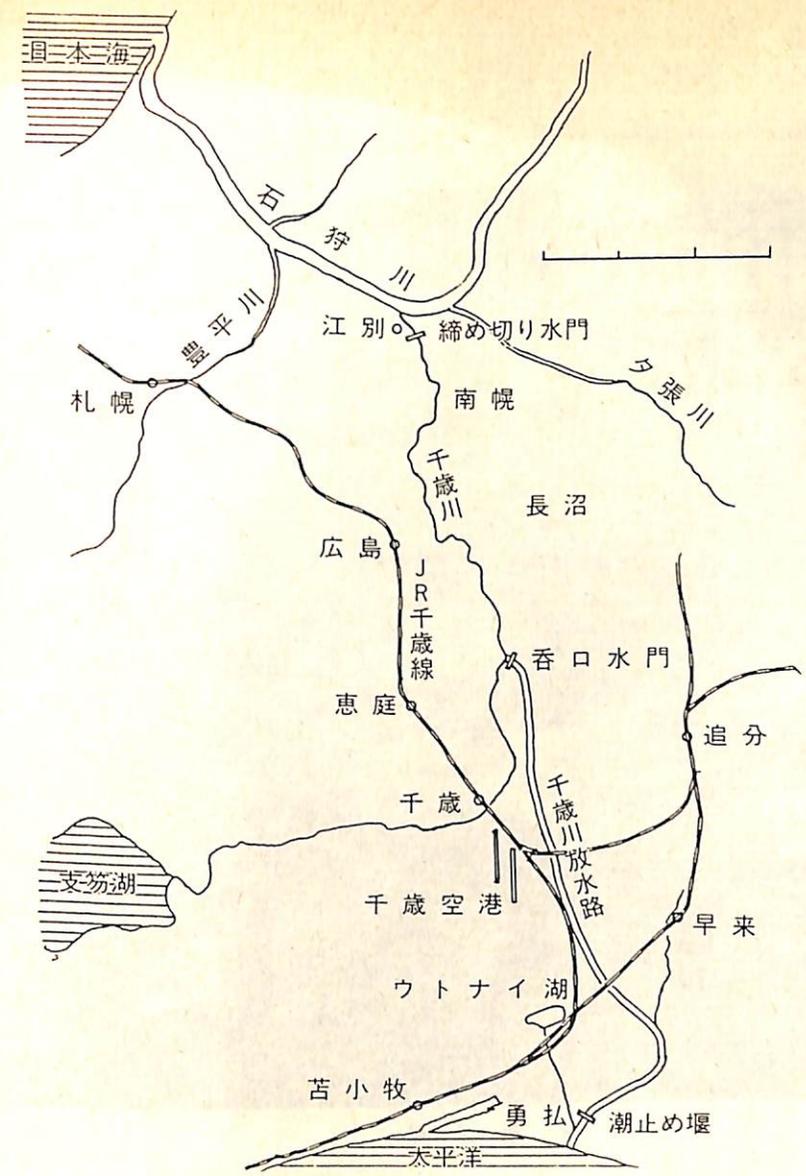
法律的には、今すぐにもアセスメントをスタートさせても違法ではないらしいのですが、やはり、道に事前の了解をとってからスタートさせる考えのようです。今、開発局と道との間でさかんに論議されているのではないかと思います。開発局は、道との協議がすめば、自然保護団体にも説

明すると言っていますが、この時は、すでにアセスはスタートし、もう、どうしようもない状況になってしまっているだろうと思います。

開発局は、行政(道、苫小牧市、早来町)の了解がとれば、その他の関係者は、そこそこに説明して、事業を進める考えのようです。

4. 今だに明らかにされない計画内容

事業を行う場合、必ず基本計画書があり、実施計画書等へと順じ移行するものです。ところが、放水路計画では、説明会のカラーパンフレットか、若干の印刷物は公表されているのですが、ちゃんとした計画書が公表されていません。ですから、



「千歳川放水路は必要か」日本科学者会議北海道支部より

今だに、千歳川と石狩川との合流点の水門の位置や、一億トンもの土砂の捨て場所等が公表されなままなのです。科学者会議の人は、安全面等を考える水門の位置は、石狩川との合流点から一〇キロぐらいは上流でないといけないのではないかと言っていますが、もしそうならば、南幌町あたりは、今、以上に危険になる可能性があります。こうした心配の声が出ないよう、しっかりと、計画書を開発局は公表すべきと思います。

5. 受益地区が逆に被害地域になる？

恵庭市は、放水路促進の立場で動いているところです。しかし、この地域にも、放水路計画を考える恵庭市民の会という組織があります。放水路計画に疑問を持つ人の集まりで、参加している農家の方が、放水路が出来たら毎年、冷害、風害で悩まされることになるのではないかと心配していました。恵庭は現在でも強い南風がふくと、塩害になっていくと、馬追丘陵が、放水路により大きく切り開かれれば、今以上の風がくることは間違いないだろう、と言うのです。洪水は、もちろん困るが、何年かに一度、洪水によって田、畑に栄養分を落すのも事実だと言っていました。この心配は、放水路促進の千歳でも言えることです。

6. 苫小牧市の動き

苫小牧市は、開発局に対し、五十六項目の質問をし、今だ明確な解答がないと慎重な立場にいます。そして、市長は、放水路によって苫小牧には、メリットはないと明言し、開発局に対しても、石

狩川水系での治水が原則であると意見を言っています。しかし、苫小牧の商工会議所が、放水路促進の立場を明らかにするなど、建設業界を中心に、仕事作りとしての放水路事業に熱い視線をなげかけているのも事実です。一方、開発局は、オートリゾートキャンプ場ということで、昨年は二千万円、今年は、数億のお金を苫小牧に入れていきます。ある人は、放水路問題の懐柔策としての意味もあるのではないかと言っていました。鳥越苫小牧市長の推進母体でもある地区労も放水路反対を打ち出しているだけに、市長の動きには、注目したいと思っています。

7. 今後の展望

今、様々な団体が、様々な運動を行っています。これの一つにして反対運動を行うという方法もありますが、今のところ、それぞれが、ネットワーク的につながりを持ちながら、個々の立場で運動をしていくことになると思います。そして、あくまで、根本的な見直しをせまることが目標になるうと思っています。

開発局は、アセスメントに入る前にまず、調査結果を公表すべきであろうと思います。それが、今、開発局と、地元自然保護関係者が決裂しているものを、つなぐ、まず初めのものだろうと思います。ウトナイ湖への影響についても、最も心配する人は、水がなくなってしまうと言うし、何らかの手を打てば、大丈夫だろうという人もいます。やってみなければ分からないというのが本当なのかもしれません。予測がつくと思います。今、開発局がオープンにしているデータでは、それすら見当がつかないのです。

開発局がどうしてもやると言っている以上、世論を盛り上げること、道、苫小牧市に、確固たる態度をとるよう、あらゆる方法をつかって、せまることが重要かと考えています。

この問題は、北海道全体の問題であり、新聞への投書なり、千歳川放水路を考える会に入会する(詳しくは、日向、〇一四四一七三六〇一九まで)なり、意識を持たれた方は、今、出来ることで、ご協力願えれば幸いです。

(おおはたこうじ・働日本野鳥の会)



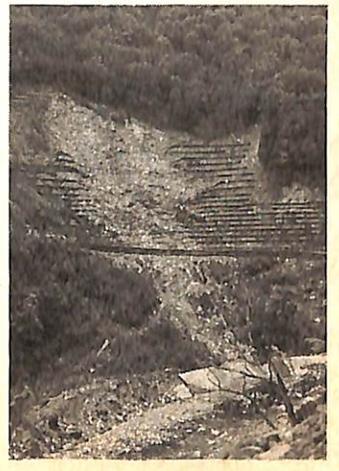
美々川源流

「日高セミナー」の報告書ができました

1984年に日高中央横断道路が着工されて以来、毎年夏に行われてきた現地視察会も5回を重ね、報告書が出されました。参加した人の感想や、関係資料が載っています。

事務局までお申し込み下さい。

1部 100円 送料 2冊まで 170円
3冊～6冊 240円



「知床全国シンポジウム」開催へ

北海道自然保護連合代表者会議

「知床基金」の用途を議題に二月二十六日、代表者会議が札幌・郵政会館で開かれました。この会議には、大雪と石狩の自然を守る会、十勝自然保護協会、知床自然保護協会、道央地区勤労者山岳連盟、社団法人北海道自然保護協会、北海道の自然を考える会、キッネハウス、室蘭岳の自然を守る会、藻琴山の自然を守る会の九団体が出席し「基金」使途の他に各団体の一年間の活動報告がなされました。

▽連合・加盟団体の活動報告

本題に入る前に、まず稲田代表から今年度の連合の活動を「三つあった目標のうち、室蘭岳と藻琴山の両スキー場計画を凍結に持ち込み、まずまずの成果であった(残り一つは土幌高原道路)」とまとめたのに続き、加盟団体の活動報告がなされました。その中では「リゾート開発」がらみの問題に取り組む団体の報告が目立ちました。また、知床をはじめとするスノーモビル乗入れが新たな問題として浮上してきていることが確認されました。

▷「知床基金」の使途

「知床伐採計画」中止を契機に「基金」を北海道の自然保護運動に活用することを取り決めてい

ましたが、その具体的な使途を検討した結果、八月十一日から十三日に全国規模のシンポジウムを開催すること、それをもとに知床国営林伐採反対運動を総括し、今後の市民運動の運びにもなる様な本の出版を行うことの一つに落ちつきました。このうちシンポジウムは実行委員会形式で準備を進めることを決定し、連合加盟の各団体から委員を派遣するほか、賛助会員の方をはじめ広く一般の方々から委員を募ることにしました。第一回の実行委員会は三月十二日に開かれ、夏に向けて内容具体化の作業を行います。

連合の活性化、そして北海道の自然保護運動が全体的に盛り上がることも配慮し「知床基金」の使途を以上のように決定しました。この使途であれば皆様の合意が得られると考えていますが、ご意見・ご要望などがございましたら、お寄せ下さい。

なお、シンポジウムならびに出版による収益金は、再び「基金」に戻す方針であります。多くの方々の参加をお待ちしています。

▽今後の取りくみ

札幌市が九一年の冬季ユニバシアードに向け、白旗山に「距離スキー競技場」の造成を計画して



(事務局)

知床全国シンポジウム開催要項案

- ◆開催要項：1) 昨年(1988・8・11～13)長野市で開催された「ナナと原生林・現代文明を考える全国集会」を継続発展させること。
2) 知床国営林の伐採が凍結になったのを機会に、知床問題の運動の総括を図ること。
3) リゾート開発を始めとして地域開発絡みの自然保護問題が全国的に多発の傾向にあり、森林問題と生活について市民・住民を巻き込んだ基本的な討議をしていくこと。
4) 長野市の「検討委員会」報告が出されたのを機に、この報告の問題と課題を明らかにし、新たな森林のあり方を考えていくこと。
5) シンポジウムの開催・取り組みを通して、道内の自然保護団体や活動者の再結集をはかり、地域に根を下ろした自然保護運動を展開するための原動力にすること。
6) 参加者に北海道の自然の実際に触れてもらい、その現状と抱える役割について認識を深めてもらうこと。

- ◆開催要項：1) 名称：「日本の森と生活を考える全国シンポジウム」
2) 主催：「日本の森と生活を考える全国シンポジウム」実行委員会 北海道自然保護連合／北海道自然保護協会／知床自然保護協会
3) 後援：北海道／斜里町／日本自然保護協会／日弁連北海道支部／日本科学者会議北海道支部／北海道勤労者山岳連盟／野生生物情報センター
4) 協賛：北海道新聞社／北海タイムズ社／朝日新聞北海道支社／読売新聞北海道支社／毎日新聞北海道支社／共同通信北海道支社／NHK北海道放送局／HBC／STV／UHB／HTB
5) 期日：1989年8月11日(金)～13日(日)
6) 場所：斜里町、知床国立公園
7) 会場：斜里町公民館
8) 規模：200名～300名(道内：7割 道外：3割)
9) 費用：集会参加費 3000円(資料代含む)
10) 宿泊：A—旅館(50人 宿泊費6000円 食事なし) 2食付)
B—寮(40人 宿泊費500円 食事なし)
C—寺(100人 宿泊費500円 軽食持参 食事なし)
D—キャンプ(100人 無料)
11) 巡検：費用3000円～5000円(斜里～知床センター～巡検) A—森林コース(百m運動地、伐採地、知床五湖、知床峠) B—山コース(百m運動地、羅臼平) C—海岸コース(百m運動地、伐採地、知床海岸遊覧)

- ◆主な内容：1) 全体集会
①開会式—開会宣言・主催者挨拶・来賓挨拶・基調報告など
②閉会式—アトラクション・開会挨拶・分科会報告及び集会的まとめ・参加者感想発表・全国集会アピール・閉会挨拶など
2) 特別講演—「新たな国民のための森づくりについて(仮称)」 予定：林野庁

- 3) 記念講演—「日本の自然と地域開発(仮称)」 予定：大阪市立大学教授 宮本隆一 氏
4) 知床のタネ—講演：「北国の森と生き物たち」 予定：野生生物と自然保護＝(仮称) アトラクション：ムソコロウ長靴ペンダなど
5) 特別報告—知床国立公園国営林伐採問題の取り組みと今後の課題について
6) 全国報告—①ツナ林を守る運動・秋田／白神山地
②郷土の自然と文化を守る運動・東京／三宅島
③リゾート開発から自然を守る運動・長野／屋久島
④屋久島を守る運動
⑤ヤンバルの森を守る運動・沖縄
7) シンポジウム—テーマ「森林のあり方と自然保護(仮称)」 基調報告者1名、パネリスト4名、司会
8) テーマ別討議—ツナ林の問題提起を中心に討議
①ツナ・原生林問題と森林行政
②リゾート開発問題と住民運動
③アイン文化と自然保護
9) 全国交流会—各地の活動報告、情報交換、親睦をはかる 参加費：1500円
10) エクスカーション—(巡検) 斜里町出発、知床センターで知床の自然に関する簡単なツクチャーをしてから巡検に入る。 海岸コース(定員41名)、森林コース(定員40名) 山岳コース(定員20名)の3コース。

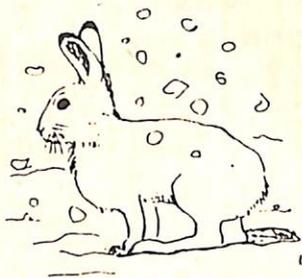
◆日程：

日	時	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
8・11 (金)	受																
	付																
8・12 (土)	受																
	付																
8・13 (日)	受																
	付																

◆その他：1) 要項案でまだ確定したものではありません。実行委員会が発足した段階で要項を確定します。
2) 後援、協賛、講演者については、現在交渉中です。

北の仲間たち

⑦ ユキウサギ



く同じ足跡が、くっきりついているではないか！太古から現代まで、種族独自の生き方を貫き通して、彼らが共に生きてきたことを実感しながら、私はしばしば二本の足跡を見つめていた。

ところで近頃ウサギは著しく減少し、その原因は増加したキツネが捕食したためとされている。しかしそれが事実なら、とっくの昔にウサギは絶滅していたはずである。ウサギが減ったのをキツネの責任にし、自分たちは知らぬふり、保護策は考えようともしない。増えた動物にはとやかく言い、駆除さえするが、減った動物についてはよほどでない限り口を開かず何も思わない。そういうことがこの一事に表われているように思う。

「エゾユキウサギ」、これが本名である。

千歳空港の国際化に伴う開発で、七、八年前、周辺の野原が消えた。それまで一帯は火山灰地で、積雪期でなくても一年中動物の足跡を追って楽しむのにもってこいのフィールドだった。ボンボンと軽快に進んでいくのはキツネ。途中からチョンチョンとウサギが特徴的な型で足跡模様に変化をつける。開発計画が進む間、付近で埋蔵文化財の発掘調査が行われ、樽前山の厚い火山灰をよけて、縄文時代の地面を再現していた。見ればそこにも、現代のキツネとウサギのものと全

しかし大抵はノウサギなどと書いてある。野ウサギの意味なのかもしれないが、ノウサギは本州以南にユキウサギは北海道に生息し、別種であり、きちんと使い分けなければならぬ。この辺にも彼らへの関心の低さが表われている気がする。ユキウサギという美しい名の、今減りつつある北の仲間にも、もっと暖かい真剣な目を向けてほしいと思う今日此の頃である。

(文と絵・平井百合子)

新刊紹介

『ぜいたくに減ぼされる動物』

M・ブライト 小原 秀雄 監訳

(佑学社 '89 一、二〇〇円)

現在、世界中でファッションやアクセサリ、美食のための野生動物が殺されている。その実態をカラー写真で捉え、分りやすい文章とともに紹介している。トラバサミに捕えられ、苦しむキツネの姿や、サイの角切りの現場が生々しく伝えられる。殺害の元凶として先進国が批判され、日本も名指して批判されており、文章も辛口だ。子どもたちと一緒に問題を考えるのに良いのではない。また、普段見かけない動物の写真集でもある。

『北の森の動物誌』

有澤 浩

(朝日新聞社 '89 一、四〇〇円)

『科学朝日』に82年から83年にかけて連載されたエッセイである。富良野の森で50年をすごした著者の体験と観察をもとにした文章は、動物たちの息づかいが伝わってくるようで優しい気持ちにしてくれる。87年4月、知床原生林で伐採が強行された。伐採にゴーサインを出した「知床国有林の動物等に関する調査委員会」に著者はクマゲラ担当の委員として名を連ねている。著者にとって「知床」と「わが愛する森の動物たち」は別物だったのだろうか。(ウニ)

ねごとわーく

連合の新年会

体制を一新して再発足した連合初の試みとして新年会が一九八九年二月四日、札幌の郵政会館で開かれ、写真Ⅱ。

これは、たまに賛助会員が集まってもらい自然保護や連合に対する声を聞こうと会員の丹野さんたちの発案と尽力で開催したもので、会報に申込みの葉書を同封して札幌とその周辺の会員に呼びかけた結果、寒さ



の中を十五人が参加しました。

知床国有林の伐採の様子を映すビデオを全員でみたあと懇談に入りましてところ「カヌーを流して川を荒れ方がひどいのを痛感する」「稚内から小樽までの海岸で海草がめっきり少なくなった」など森林ばかりでなく川や海の荒廃を心配し連合の対応を期待する声が続きました。

また「会員が手をつないで完全に取り組みたいが誰が会員かわからないので名簿を作ってほしい」など積極的な意見が続出し、北海道の自然の喪失を心配する人々が既存の自然保護団体以外にもきわめて多いことが痛感されました。このような人々の思いを結集し力のある市民運動として成長していくことがこれからの課題です。(紺谷)

新年会に思う

「飲んで食べて大いに語ろう」と、二月四日(土)PM六〇〇〜八三〇郵政会館にて、賛助会員・団体の新年会が行われた。

知床伐採のビデオを観、初対面の人が多いということで自己紹介、その後連合の現状、フリーディスカッション。

入会のきっかけは

・ムツゴロウさんとの出逢いがきっかけ……

・商売上木の大切さを考え、木材を通して森林のあり方を考えなくては……

・知床ベースキャンプがきっかけ……

・山登りが好きで……いろいろ。話の内容として、会員同士の情報交換ができるような自然保護一〇番を作っては……と提案され、今度の常務会で話し合われる予定。

仕事で出席できない、小さい子供がいて、お年を召してあまり外出できないという方、また、連合の現状を見ていて、とても参加する気にはなれないという方がいました。電話での話の中のこと、

・入会しているが、連合のシステムも全然わからずただ会報が送られてきているが、私はまだ会員なのでしようか。

・私は年金生活者、少ない生活費の中から会費を払っている、大切にしてほしい……

・団体として入会はしているが今まであまり参加もしていない。最近やっとなんか関係するように思っています。

・良くも悪くも、会員の方々の生の

確 認 書

藻琴山スキー場(後援)開発計画(1)についで、今般、自然保護員団体の会報から、伝わり道ぬい

平成元年2月24日

藻琴山村長 鈴木 善昭

藻琴山の自然保護員 会報 発行

インフォメーション

切り抜き

『知床全国シンポ』実行委員会参加のお願い

当連合他主催により、8月に「知床全国シンポ」を開催します(本紙P7参照)。準備期間が実質五カ月間と短期間でありますので、加盟団体・賛助会員の方々ははじめ、自然保護に興味のある方に幅広くご協力をお願いいたします。つきましては実行委員会を開催しますので、ご参加のほどお願いいたします。

第一回実行委員会

日時 三月十二日(日)午後一時～五時

場所 婦人文化センター音楽室

札幌市中央区大通西十九丁目
☎〇一一六二一一五一一七

第二回実行委員会

日時 四月九日(日)午後一時～五時

場所 婦人文化センター音楽室

住所 同右

ゴルフ場造成断念——釧路市

二十一日の定例釧路市議会一般質問で、鰯淵市長は、釧路市が釧路川下流の釧路湿原国立公園普通地域を含む河川敷に計画している市営ゴルフ場の造成を断念すると声明した。同ゴルフ場については、ゴルフ場で使用する農薬が釧路川をそ上するシヤマの産卵、成育に影響を及ぼすと水産関係者が反発しているほか、昨年七月に実現したばかりの国立公園内のゴルフ場造成は好ましくないとの声が市民から出ていた。

(12・21 北海道)

過去最高の四八五羽——タンチョウウ

生息数 釧路、根室、十勝の三管内で五日、一斉に行われた六十三年度タンチョウ生息状況の調査結果が二十三日まとまり、幼鳥、五十三羽、成鳥四百三十二羽の合わせて過去最高の四百八十五羽を確認した。昨年より六十一羽の増加で、道自然保護課と地元関係者は「来年はぜひ五百羽の大台に乗せたい」と熱い期待を寄せている。(12・24 北海道)

道が江別市に「ノー——野幌森林公園内の防災道路計画

道立野幌森林公園に江別市が防火帯を兼ねた東西に貫く防災道路建設を計画し、自然保護団体が反対して「森林の伐採を伴う道路建設は問題がある」として、計画を認めないことを同市に伝えた。

(12・27 北海道)

ゴルフ場35ヶ所が無登録農薬——道

野放し散布で環境汚染や健康への影響が心配されているゴルフ場の農薬使用状況について、道保健環境部は二十七日、道内百十九ヶ所の全ゴルフ場の聞き取り調査結果をまとめた。それによると、一カ所を除き除草剤や殺虫剤などを散布し、使用量は冬季間の閉鎖期があるため本州ゴルフ場より大幅に下回っているが、芝への使用が認められていない農薬を使っているのが三十五ヶ所あった。(12・28 北海道)

釧路湿原で無許可工事——JR北海道

釧路管内標茶町の釧路湿原国立公園区域で、JR北海道が無許可で道路取り付け工事をしていたことがわかり、釧路支庁は二十日までに、J

Rに対し、原状復元措置をとるよう行政指導した。釧路湿原の公園づくりでは、保護優先の姿勢が求められており、慎重さを欠いた工事に、関係者から批判が強まっている。

(1・21 北海道)

ゴルフ場乱開発に歯止め——早来町

道内外のデベロッパーから相次いでゴルフ場開発計画が持ち込まれている胆振管内早来町は、近く独自のゴルフ場建設に関する指導要綱を作成し、規制に乗り出す。指導要綱は、①乱開発の抑制②自然環境保全③町の総合的な土地利用計画の推進——が目的。(1・29 北海道)

環境アセス書作成へ——千歳川放水

環境問題などをめぐり、地元の反対が根強い千歳川放水計画で、道開発局が三月中旬にも環境影響評価書作成に向けた手続きを始める動きが出てきた。大窪敏夫局長が三十日の記者会見でその意向を表明したもので、同月中に環境影響評価の準備書を道と、地元自治体に送付したい、としている。日本海に注ぐ石狩川水系の一部を太平洋に逆流させようという計画に対しては、「自然環境が一変しかねない」などと、苫小牧市

声

など計画下流域の自治体をはじめ、農業、漁業団体、自然保護団体らが強く反対。横路知事「地元の理解を得ることが先決」と同局に対し慎重な対応を求めている。(1・31 朝日)

アイヌの土地強制収用へ——二風谷 日高支庁平取町二風谷(にぶたに)の沙流川水系に建設中の二風谷ダム用地買収をめぐる、北海道開発局が一昨年十一月、民族の権利の回復を主張して交渉に応じないアイヌ地権者に土地の明け渡しを命じる強制収用の裁決をした。地権者らは「明治開拓期以来、繰り返された和(日本人)による収奪の再現だ」などと反発、裁判所へ提訴の構えもみせており、国の少数民族対策の遅れや法制の不備が問われている。

(2・4 朝日)

暴走スノーモビル——雪の知床国立公園

網走管内斜里町の知床国立公園では、特別保護地区にまで無謀なファンが入り込み、植生の破壊やオジロワシの繁殖への影響が心配されるほど。自然環境が受ける被害は、スノーモビルの普及とともに全道の山や森林に広がる恐れもあり、自然保護団体や公園関係者の間では規制強化を望む声が強い。(2・6 北海道)

さて、昨年九月関西高校で文化祭を行い、第IIコースは三年連続のテーマ「知床を考える」でクラス参加をしました。問題があまりにも大きく、能力不足も加わり焦点を絞る事もできず、問題点の羅列に終ってしまいました。今年で卒業となるのですが、何か心に残るものがあり、地球規模で物事を考えることのできる日本人に育てていく事に役立てばと思ひ気楽に取り組んできました。その節には毎年、早急に資料を請求し、大変ご迷惑をおかけしました。お陰さまで、不十分なが三年間文化祭にも取り組め、生徒も私も、大変良い勉強になったと感謝しています。(関西高校 普通科第IIコース 三年一同)

地域の活性化と、何とかの一つ覚えの眼先の欲のため、次々と緑地帯を侵してリゾート化させ、水源池を失いやがては水危機を招く……。何故この様な愚が繰り返されるのでしょうか。地球は病人で居るのに。「我亡きあとに嵐は来たれ」的思

考で地球を廃墟となし、愛する次世代は、そして動植物はどうやって生きて行けるでしょう。地球破壊は決して近未来などではなく、既にもう起りつつあると思えるのです。国が、行政が、企業が、そして個々が強い自覚に眼醒めて、意識変革の実践に依るしかないのでは、ないでしょうか? (札幌市 苗村 三枝)

知床伐採「凍結」に関する「声」 『北の自然』第38号で、知床の原生林が手をつけないまま守られることになった記事を読み、心から喜んでおります。現地はじめ運動に直接従事された皆様のご苦労が酬いられて、本当によかったと思えます。「林業と自然保護に関する検討委員会」の報告がその根拠になったわけですが、委員の皆様もご苦労さまでした。しかし、とくに成長志向の強い日本では、道路を造り、橋を架け、鉄道を敷き、限りなく自然を破壊・収奪して行き、バッファゾーンにまで喰いこんで行く危険性が高いと思われまます。また独立採算性の林野庁の財政問題の制度的検討も必要になるのではないのでしょうか。これから監視が必要です。

昨年十二月に日本の原生林を守るための十二ヶ所の保護管理の実施がうち出され、知床原生林もやっと思られる事の特集で拝見いたしました。長年の皆様のご苦労の一部が報いられました事をお喜びいたします。これからのいろいろな問題が後を立たないと思えます。どうぞ一人でも多くの方々をたずさえて頑張ってください。

私の町でも飛行場建設について環境破壊や騒音被害で反対しています。なかなかむつかしいようです。それにゴルフ場が三つも出来ていまして、また一つ増えるようであれば、どこまで破壊したいのでしょうか。腹立つことばかりでございます。(滋賀県 端 芳子)

寄付金

- 阿相曜子 二〇〇〇円
- 浅子かおひ 五〇〇〇円
- 曾野知雄 一五〇〇円
- 関西高校(普通科第IIコース三年一同) 二〇〇〇円
- 岡村みゆき 五〇〇〇円
- 第一モウモウ荘一同 一〇〇〇円

活動の記録・事務局

(12月21日～2月26日)

- | | | | |
|--------|--------------------------|-------|--------------------------|
| 12月21日 | ○資料整理 | 1月21日 | ○「北の自然」38号発送 |
| 12月28日 | ○仕事納め・大そうじ | 2月4日 | ○新年会（郵政会館） |
| 1989年 | | 2月16日 | ○常務委員会（知床全国シンポ・出版計画について） |
| 1月6日 | ○仕事始め | 2月24日 | ○藻琴山スキー場計画、村長交渉（東藻琴村役場） |
| 1月19日 | ○常務委員会（知床全国シンポ・出版計画について） | 2月26日 | ○代表者会議（郵政会館） |
| 1月20日 | ○「北の自然」38号納品 | | |

編集後記

○今号より、北大の学生の宇仁（ウニと読みます）君に編集作業を手伝ってもらっています。これからもよろしくお願ひします。

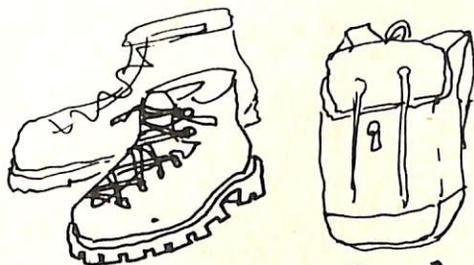
○連合にとって賛助会員の方々の存在は無くしてはならないものとなっています。来年度も引き続きお力をいただきたく八九年度分の会費の納入をお願いいたします。

○連合とは八六年の知床キャンプ以来のつき合いです。事務局を手伝うようになったのは去年の十二月からです。このごろ思うのは、問題意識を体で表現するのは本当に難しい、思い切りの必要な作業だということ。私も知床キャンプに顔を出して以来、二年以上も何ら行動しなかったわけです……。けれどいったん動き出すと毎日が充実したものになり、新しい発見と発想が得られるんですね。体ごとぶつかって行くことの大切さを実感しています。

(ウニ)

一九八九年三月一日
 発行者 北海道自然保護連合
 代表者 稲田孝治
 編集者 井山浩一
 事務所 札幌市東区北二十条東一丁目
 前田ビル二〇三号
 電話(011) 七四二一三一六一
 振替口座 小樽一四〇七一
 賛助会員年間
 一口 三、〇〇〇円

北の自然隔月発行
 印刷 北海道機関紙印刷所



登山
 キャンピング
 カヌー
 アウトドア用品

北海道、山の店 秀岳荘

営業時間 / AM10:00～PM7:00 定休日 / 毎週月曜日

札幌本店 札幌市北区北12条西3丁目 ☎(011)726-1235
 旭川店 旭川市7条8丁目左2号 ☎(0166)23-3416
 (専用駐車場完備)